

自治 温故創新  
考える  
思いやる  
やりぬく

# まごころ

学校便り 1月号  
令和6年1月26日  
西東京市立田無第三中学校

## 三学期が始まって

校長 東山 信彦

今年は元日早々に驚天動地の幕開けとなり、いつもと違うスタートとなりました。日常というものが、いかに危ういものなのか、考えさせられました。友人から、自身が勤務する学校が避難所になっているという連絡を受け、自分に何ができると考えを巡らせました。ただ、その時点で私のできることは募金することだけでした。虚しさがつのりましたが、その中で、改めて今自分のできること、すべきことを考えたとき、目の前の生徒の育成に力を注ごうと思いました。なぜなら、中学の学びをしっかりと身に付けることが、さまざまな状況において、生きて働く力になるからです。なぜ地震が起きたのか、なぜかくもインフラが破壊されたのか、そのヒントと答えは、全て中学の学習の中にあります。心身の健康を保つ気力・体力、避難所における集団生活の仕方も学校生活の様々な取組の中で身に付けます。生きる力の育成は中学の学びの中に詰まっています。学習指導要領には、各学年で身に付けるべき力が示されており、全国の中学生が等しくその力を身に付けるべく学んでいます。本校の生徒もちろんその中の一人です。日常の学びは、非日常への備えとなります。

三学期は、その仕上げの学期となります。そして、次への準備の学期でもあります。しっかりと、学び、鍛え、今までの学びをさらに発展させていきます。

## 第一学年スキー移動教室



1月16日から、18日まで、菅平へスキー移動教室に行きました。充実した行事となるよう、この日のために、学年心を合わせて準備を進めてきました。スローガンは「SKI CHALLENGE～雪の深さに負けない友情～」です。

早朝、西東京を出発した一行は、最高気温－7℃(最低気温ではありません)という、極寒の菅平に向けて、一路進みました。昼食後、早速スキー実習の開始です。雪が降り積もる中、開校式、コーチとの挨拶、ゼッケン付け、スキー装着と、一つ一つ手順を踏んで、スキーチャレンジが始まりました。スキー未体験の生徒がほとんどでしたが、厳しいコンディションにくじけず、楽しそうに実習に臨んでいました。夜は、大レク大会。ゲームの後には、「ちょっと待ったあ」の一声で、サプライズの「桃太郎」が始まり、大盛り上がりとなりました。

二日目は打って変わっての快晴。まさにスキ

一日和。講習も回を重ねるにつれ、少しずつ上達していくのがわかりました。リフトを乗り継ぎ、100km先のアルプスの山々を一望できる最上部まで遠征する班も出てきました。よく運動したおかげか、食事もりもり食べて、元気一杯に二日目も終了です。夜は、各所でゲームや歓談が盛り上がりました。

もう三日目です。口々に「もう最後か。」「もっといたい。」と言いながら、最終滑走へ滑り出していきました。移動教室はこうやって、明るく元気な生徒とともに、最終日を迎えていきました。閉校式では、宿舎の方から「最初、元気がよくて、大変な学校かと心配したけれど、元気で明るく、礼儀正しい生徒さんたちで、とてもよかったです。」と、ご挨拶いただきました。まさに三中生の姿を認めていただき嬉しかったです。

スキーがメインの活動とはいえ、三日間で学ぶことはそれだけではありません。三日間の集団生活の中で、何をすべきか、考え・判断・伝える力や、自分と同じように、相手も尊重する思いやりの心、そして、スキーも含めて、それらを三日間やりぬく力を学ぶことにもチャレンジしました。



この三日間、最初は教員に声を掛けられながらも、次第にお互いに声を掛け合い、助け合う姿が随所に見られるようになりました。食事の支度や後片付け、部屋の整理なども、手際よく動けるようになりました。なによりも、集団として、みんなでやっぺいこう、相集ってよくしていこうとする雰囲気を感じられました。まさに三中生の姿です。

三中生活で、この学びがどう生かされていくか、一皮むけたこれからの一年生に期待したいです。



○三中生の活躍

**西東京市生徒作品展**、1月13日～15日 「きらっと」にて開催されました。出品は、国語科(書初め)・美術科・家庭科・技術科です(写真左上より時計回りに)。



**卓球部**

1月14日第11ブロック新人卓球大会  
男子団体 第5位 (都大会出場)